

助けや危険を知らせる音についての情報交換報告

開催日時	1. 2018年7月4日	2. 7月6日
開催場所	1. ヤマハ（株）	2. （一財）家電製品協会
書記	田近	

1. SoundUD 推進コンソーシアム訪問 <https://soundud.org/>

日時：2018年7月2日 14:00~15:15

参加者：石田 哲朗事務次長（クラウドビジネス推進部 SDU グループ チーフプロデューサー）・大石 博徳（同グループ シニアディレクター）

標準化を考える会：森口・田近

SoundUD 推進コンソーシアムについて（当団体のご案内より抜粋）

「近年、訪日外国人の増加や障がい者差別解消法の施行、高齢化社会の到来などにより、情報格差や差別のない新たな情報提供が求められています。しかし、音に関するユニバーサルデザインの取り組みは世界的にも遅れているのが現状です。SoundUD 推進コンソーシアムでは官民一体となってこの問題に取り組み、公共交通機関、商業施設、観光施設、宿泊施設の利用中や災害時などのあらゆる場面で、言語・聴力に不安のない社会の実現に向けた環境整備を行っていきます。」

6月に行われた NACS 発表会の資料等を基に助けを求める音の標準化活動を説明し、ご協力をお願いした。主なご意見・アドバイスは次のとおり。

- ・助けを求める媒体のスコープ（範囲）は何でもいい（ブザー、携帯、スマホ、端末等）。助けを求める音の対象（発信者）は？
→子ども・高齢者・障がい者も含め全ての人と考えている（スタ研）

<おもてなしガイド（アプリ）の紹介>

機能：スマートフォン等で、例えば、日本語で流れているアナウンスの内容をインターネットに接続することなく、任意の言語に翻訳された文字で表示することができる。音で通信を行うため、インターネットに接続していない端末でも情報を取得できる。

一例として、ロシア語での鉄道のアナウンスが流れると、日本語や英語に変換した情報が画面にでてくる様子を見せて頂いた。誰もがアナウンスの内容を理解することができる「音のユニバーサルデザイン化支援システム」

- ・トリガー（音による情報通信）を入れることにより、音の ICT 化ができる。（アプリ）

助けを求める音を流す⇒位置情報⇒キャッチした方に「どこどこで誰か（子どもが）が助けを求める音を流しました」などと、文字や声で表示される。ブザーが鳴ると反応する仕組みで、たまたま近くでキャッチすれば駆けつけられる可能性があり、また（まもるっちの様に）センターで受けることもできる。文字情報を入れた JIS ができればよい。

- ・伊福部達先生も当コンソーシアムの顧問の一人。

2. (一財)家電製品協会

日時：2018年7月6日 9:30~12:30

参加者：町田 隆消費者部部長・長岡 正伸消費者部担当部長・桑野裕康氏（パナソニック ユンバーサル推進課）・他1名

担当標準化を考える会：森口・田近

6月に行われた NACS 発表会の資料等を基に助けを求める音の標準化活動を説明し、協力をお願いした。主なご意見・アドバイスは次のとおり。

- ・どこを端緒としていくか。防犯ブザーが例にあがっているが、やはりブザーの関係者・団体（電池工業会など）などに相談してはどうか。
 - ・セコムや規格協会の中久木氏に持ちかけてはどうか
- セコムは研究所も持っており、セミナーの参加要請で連絡をしたことがある。中久木氏は、消費者関連標準化推進室長でいらっしゃるの、早い時期に相談した。（スタ研）
- ・全国防犯協会連合会の優良防犯ブザー音のサンプルは高く、高齢者に聞き取りにくい。
 - ・子どもが「まもるっち」を持っており、あちこちで発報されることがある。このブザー音（サンプル音に似ている）は保護者にはよく認識されている。一方、住人には知られていないと思う。（家電製品関係者）
 - ・今ある防犯ブザー音がどのような課題があるか調べてはどうか？
- 長岡氏にもご参加頂いた音のセミナーで、ブザー音の聞き比べを行った。「危険を知らせる音」そのものの聞き比べだけでなく、「危険を知らせる音」が様々な環境下で使用されることを想定し、雑踏などの環境音の中でいくつかのブザー音を鳴らし聞き比べを実施した。緊急性を感じない、ゲーム音に聞こえるなどの意見があった。今後も検討する。（スタ研）

以上